

氏名： 松浦 秀治
所属： 人間文化創成科学研究科自然・応用科学系
職名： 教授
学位： 理学博士（1982 東京大学）
専門分野： 自然人類学（特に人類進化学、先史学、年代学）、文化財科学（特に年代推定学）
E-mail： matura.shuji@ocha.ac.jp
URL： <http://www.eng.ocha.ac.jp/anthropol/index.htm>

◆研究キーワード / Keywords

人類の起源と進化／化石骨／年代推定／日本の旧石器時代人／ジャワ原人
human origins and evolution / fossil bone / dating methods / Palaeolithic homind remains of Japan
/ fossil hominids of Java

◆主要業績

総数（2）件

- ・日本の旧石器時代人類？特にその編年に関する現状と課題. 日本第四紀学会 50 周年電子出版編集委員会編『デジタルブック 最新第四紀学（CD-ROM および概説集）』, 日本第四紀学会, CD-ROM 所収.
- ・Mortality profiles of Late Pleistocene deer remains of Okinawa Island; evidence from the Hanandagama Cave and Yamashita-cho Cave I sites.&Oda;Anthropological Science, Vol. 118（印刷中）.

◆研究内容 / Research Pursuits

<主要研究テーマ>

1. 人類の起源と進化：特にその年代論、年代・環境的背景
2. 化石骨の年代測定・判定学
3. ジャワ原人や日本の旧石器時代人類の編年および変遷史

<研究目的> 大きな目的は「ヒトとはどういう生物か」を知ることである。それには多面的・多角的な調査が必要となるが、私の場合は、地球における人類の起源と進化という面に興味を持ってアプローチしている。人類の進化を研究するには、進化の道筋をたどる具体的な資料であり、様々な生命・生命体情報の宝庫として「化石となった生」とも言える古人骨を対象とした研究が不可欠である。そうした研究においては、資料の「古さを特定し、編年をおこなう」ことは「古人骨からのわかること」への基盤情報をなす。以上の観点と興味から、主に上記の3つのテーマで研究をおこなっている。

The main purpose of my research is to understand the uniqueness of our species, "why a human", and there should be diversified and many-faceted attacks to this problem. I have been approaching this problem from the palaeoanthropological and evolutionary perspectives, especially through working on human skeletal remains which provide many and various information for the reconstruction of life and the human career. More specifically, my main research subjects at present are as follows: i) human evolution and origins with special reference to the geochronological backgrounds, ii) dating of fossil bones.

◆教育内容 / Educational Pursuits

以下の授業等を担当するとともに、主に自然人類学に関する研究を指導した。

<学部>

生物人類学／自然人類学（全学共通科目）

ヒトと文化／生物人間論（生活科学部共通科目）

人類進化史（生活科学部専門科目）

人間・環境科学実験実習（生活科学部専門科目）

人間・環境科学演習（生活科学部専門科目）

人間・環境科学輪講？及び？（生活科学部専門科目）

<大学院>

人類進化学特論（ライフサイエンス専攻）

総合生命科学（大学院共通科目）

In the school year of 2009, I supervised graduation studies mainly on physical anthropology, and instructed classes such as introduction to biological/physical anthropology, general human biology, human evolution, experiment and training on human-environmental sciences, special seminar on evolutionary anthropology, and some other lectures or seminars.

◆研究計画

<将来の研究計画・研究の展望>

2008年度に得た主な日本学術振興会科学研究費補助金には、基盤(A)「世界文化遺産サンギラン遺跡出土古人類化石の評価にかかる年代学的検証」(代表者)、基盤(S)「更新世から縄文・弥生期にかけての日本人の変遷に関する総合的研究」(分担者)がある。前者では、ジャワ原人の年代論争について、現地調査を通してその検証をおこない、東方アジアにおける人類進化史の解明をめざしている。後者に関しては、日本の旧石器時代人骨の再評価と編年の再検討を進めることによって、日本人の起源に大きく関与する縄文時代人の起源と形成史について考察を進めたい。

<共同研究可能テーマ>

1：化石骨の年代測定（特に炭素14年代の前処理法）に関する研究

◆メッセージ

受験準備としては「理系パターン」「文系パターン」への対処は必要であるが、そもそも理系・文系というのは受験区分であり、学問にそうしたレッテルを貼る必要はない。入学後は、「自分は理系（あるいは文系）」などという枠を自らはめることなく、広く「リベラル・アーツ」を身につけてほしいと思う。